

国際ロータリー2560 地区目標

ロータリーで
人生をより充実させよう

高田ロータリークラブ会長方針

一所一期一会

持続可能な
インパクトを
生み出そう



国際ロータリー会長 オラインカ・ハキーム・ババロウ

第 2560 地区ガバナー 富山 洋

高田ロータリークラブ会長 吉原耕一

幹事 鈴木陽一

広報・会報・雑誌委員会：

阿曾 晋 丸田健一 釜田英一 梅津真揮夫

第 10 回例会 9 月 18 日(金)

No. 10

会長挨拶

● 吉原 耕一



こんにちは。

先週のガバナー公式訪問にご出席いただきました皆様、有難うございました。又、地区ゴルフ大会にご参加いただきました皆様、悪天候の中ありがとうございました。なお本日も、原野直前幹事さんにピンチヒッターをお願いしています。原野さんありがとうございます。

本日は高田の話その 3 です。前は「なぜ高田という名前をつけたのか」でしたが、本日は、「忠輝はなぜ雪が積もるとわかっている場所に城下町を作ったのか」というお話です。

高田は人口 10 万規模の都市としては世界で一番積雪の多いところだそうです。1600 年ごろの気象条件も今とそんなには変わらなかったはず。しかも、皆様もよくご存じのように、高田地区よりほんの数キロ日本海側に移動するだけで、積雪はほとんどなくなります。すでに福島城で 3 年ほどを過ごしていた忠輝も状況は分かっていたはず。また、ある程度の広い土地や、水害を考えた微高地などの城と城下町を作る条件に適う地点は頸城平野の他の場所にもあったはず。なぜ雪の積

もる今の場所に城と城下町をつくったのでしょうか。答えは「どうしてもこの場所でなければならなかった」ということだと思います。

その一つの仮説に、高田城の築城場所は占いによって決められたという説があります。地図で①福島城と、高田城完成まで普請責任者の伊達政宗が陣頭指揮を執った②富岡の御飯屋、さらに③高田城の本丸の 3 地点は、正しく南北ライン上に 4 km(1 里)ずつの等間隔で合計 8 km(2 里)できれいに並びます。忠輝の母である茶阿局が家康の側近である金地院崇伝（今でいう首相ブレインや東大大学長のようなものでしょうか）に新しい城の位置の吉凶を占わせていることが崇伝の日記『本光国師日記』に残っているそうです。これによりますと、茶阿局の「今いる福島城の南の方に新しい城を築きたいが吉凶はどうか」との問いに、崇伝は「一段と良いでしょう」と占いの結果を返答しています。実際に現在の高田城の本丸が福島城の本丸跡からぴたりと真南 2 里(8km)の地点にあることは、この場所でなければならなかったということを、間接的に証明しているように思われます。つまり、現在の高田城の場所は、ピンポイントで今の場所でなければならなかったのではない、そのために気象条件は後回しにされたのではない、ということです。

今日の吉原の話は「ふーん、そんな話もあるのか」という程度でお聞き流しいただければと思います。

本日の卓話は前の博物館館長で高田文化協会事務局長の宮崎俊英様をお願いしました。では、宮崎様よろしく願いいたします。



出席報告

93.75%

メイクアップ

西山要行君：9/6(日)高田 RAC 春日山城跡草刈り
小師智彦君・西山要行君：9/14(月)高田 RAC 例会

セレモニー



2026-27 年度
地区役員委嘱状

ライラ委員会委員長
細野 仁君

会員インフォメーション

加藤公一君：
百年料亭宇喜世
クラウドファンディングの
お知らせ



幹事報告

配布物：週報No.8・9

回覧物：・2027年バルセロナ国際大会登録開始について
・グローバル奨学生鶴崎さん月次報告書
・「フードリスキュー・コミュニティ」Healthy Food Initiatives 賞
ノミネートについて
・「上越市の歴史資産を活かしたまちづくりの可能性」講演チラシ
・「早稲田松代塾」チラシ

報告：地区ゴルフ大会参加費は事務局までお願いします

卓話：

高田ゆかりの画家 富岡惣一郎と楊洲周延

高田文化協会 事務局長 宮崎俊英様



富岡惣一郎（1922～1994）は、雪国高田で育った原体験を基に、雪国の風景を白と黒で表現した。働きながら独学し、国内外の展覧会で受賞。ニューヨーク滞在を経て、独自の白絵の具「トミオカホワイト」を開発し、特注の長大ナイフによる技法を確立。国内外を取材し、「白の世界」を展開した。

作品は「東洋の白」「俳句のような絵」と評され、壁画や公共施設にも広く残され、中でも上越市役所はトミオカホワイト壁画美術館と呼んでもよいほど壁画が飾られている。

楊洲周延（1838～1912）は、江戸詰高田藩士の家に生まれ、戊辰戦争では神木隊に所属、彰義隊とともに上野から箱館まで戦った。敗戦を経て刀を筆に替え、豊原国周に学び、浮世絵師として再出発した。

西南戦争を描く報道的錦絵で評価を得た後、「雪月花」「千代田之御表」「千代田之大奥」「時代かがみ」などを制作。近代化の中で失われゆく儀礼や四季、女性たちの生活を鮮やかに再構成した。このたび上越市立歴史博物館に1200点以上が寄贈された。



本日のお食事 天ぶら定食